

傷寒・金匱方劑解説 57 きー9

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
きー9	橘皮枳実生姜湯	<p>橘皮 (辛温) 16g・枳実 (苦寒) 3g・生姜 (辛温) 8g 上の3味を水200mlを以て煮て80mlを取り、2回に分けて温服する。</p>
<p>胸痺心痛短気病脈証併治第九第6条 (金匱要略)</p>		
<p>「胸痺^{きょうそく}胸塞短気するは、茯苓杏仁甘草湯之を^{つかさど}主る、橘枳姜湯 (橘皮枳実生姜湯) もまた之を^{つかさど}主る。」</p>		
<p>解説 胸痺の病で、胸中に気が塞がったような気持ちになって、息苦しくハアハアする者に、茯苓杏仁甘草湯が主治する。橘枳姜湯 (橘皮枳実生姜湯) もまた主治する。</p>		
<p>橘皮枳実生姜湯証と茯苓杏仁甘草湯証は、証は同じでもあっても体の状態に違いがある。</p>		
<p>橘皮枳実生姜湯証の胸痺は、胃寒があり、そのために上焦に熱がこもっていることにより胸痺が生じたもので、胸中に気が塞がった様な、或いは何か詰まった様な感じがして息苦しいなどの症状を呈する。</p>		
<p>橘皮枳実生姜湯は、辛劑二と苦劑一とからなり、橘皮・生姜で胃気を温めて補い、生姜は水を駆逐し、枳実で上焦にこもっている熱を全身に廻してやるのである。</p>		
<p>新古方薬囊によれば「橘皮は、胃中を温め、よくシャククリを鎮め、また胸満を治す。」とある。</p>		
<p>茯苓杏仁甘草湯証の胸痺は、肺の気虚があるために、肺に水滯が生じており、このために腎の陽気が上衝して陽気 (熱) が上焦に滯って胸痺が生じたもので、胸中に気が塞がった様な、或いは何か詰まった様な感じがして、息苦しくハアハアしたり、動悸、息切れなどの症状を呈する。</p>		
<p>茯苓杏仁甘草湯は、甘劑のみで、茯苓で裏の腎の陽気が上逆するのを緩下し、水を利して眩、悸などを治し、杏仁で肺の気滯を降下させ、甘草で呼吸の急迫を緩和する。</p>		
<p>新古方薬囊によれば「茯苓は、水を取め、乾きを潤しその不和を調う。故に動悸を鎮め、衝逆を緩和し、水を利して眩、悸などを治す。」とある。</p>		
<p>橘皮枳実生姜湯証 新古方薬囊によれば「胸痺の病で、胸の中が氣塞がりて息が出来ず、為に呼吸早くセイセイする者。」と記されている。</p>		
<p>茯苓杏仁甘草湯証 新古方薬囊によれば「胸痺の病で、胸中に気が塞がった様な気持ちがして息苦しくハアハアする者。胸痺の病とは胸中に痛みを生じ、或は胸中に塞がりたる感あり、或は息苦しきこともありなどして、その証特に夜中に劇しきものをいう。」と記されている。</p>		